



「自ら学ぶ、主体的に学ぶ」

校長 豊岡 耕一郎

3学期の始業式で、「自ら学ぶ、主体的に学ぶ」ことの大切さをお話しました。人から言われたことを、ただやるだけでは、本当の力はつかないし、緊張するような場面で力を発揮することはできません。やはり自ら考え、学ぶことによって得られたものが後々の大きな財産となるのです。いずれ君たちは、社会に出て様々な困難な場面に遭遇します。その時、それらを解決するため、新しいことに挑戦し学ばなければならない時が必ず来ます。そこで問われることは、学生時代に自分がどれだけ勉強してきたかということなのです。基礎学力は当然必要ですが、大切なのは知識を習得することではなく、考え方、勉強の仕方が身についているかということです。先生に答えを聞いて、考査前にただそれを丸暗記しても意味がありません。考え方、調べ方を聞いて、自分で答えを出す。そのような視点で、今後の学校での授業に臨んでください。

1 2年生修学旅行を実施

2年生は、1月9日から3泊4日で沖縄修学旅行を実施しました。初日は南部戦跡をめぐり、太平洋戦争における沖縄戦がいかに悲惨な状況であったか、施設見学や現地ガイドの説明を通して学習しました。



2日目からは沖縄の自然や文化に触れました。特に伊江島では、島の家族と寝食を共にして、一緒に食事を作ったり、沖縄伝統の三線を教えてもらったりするなど、深く交流することができました。島の方々の暖かいおもてなしに生徒も感動して、多くの生徒が別れを惜しんでいました。閉村式の時、島の方々が「行ってらっしゃい」とおっしゃって下さったことが、今でも心に残っています。



2 女子バトミントン部大活躍

女子バトミントン部は、1月20日(日)東京都高等学校冬季東ブロック大会に出場しました。予選を全胜で勝ち抜き、本戦でも3勝を挙げ見事3位に入賞しました。劣勢になっても気持ちを切らさず、冷静に懸命に試合に臨み、チームワークで接戦を1つ1つものにしていった姿に、大変感動しました。今後の活躍がますます楽しみです。



3 学習室をもっと活用しよう

平日の5時から7時まで2階会議室を学習室として開放しています。定期考査前は活用している生徒は見られますが、普段はそれほど多くありません。部活が終わった後、1時間でもいいから学校に残って、宿題や復習をするなど自らの意志で勉強してください。

勉強はやれば必ず伸びます。君達にはその可能性が大きく広がっています。そして学んだことは君達の大きな武器となり、未来を豊かにします。

第2学年 修学旅行を終えて

第2学年担任 佐藤 玲未

平成31年1月9日(水)～12日(土)にかけて、第2学年の修学旅行が行われ、全行程を無事に終了することができました。今回の旅行先は沖縄県の「本島」ならびに、フェリーに揺られること30分の場所に位置する「伊江島」の2か所でした。沖縄戦やひめゆり学徒隊についての学びを深めた「平和学習」、古宇利島や美ら海水族館など沖縄ならではの観光地を巡った「クラス別観光」、そして、現地のおじい・おばあから沖縄の文化を教わることができた「伊江島民泊体験」。生徒は数え切れないほどの素晴らしい思い出とともに大崎に帰ってきました。

「沖縄料理ってどんな味なのだろう!」「初めて飛行機に乗るんだ!」「あったかいといいな〜!」「民家でどんなことが体験できるのだろう!」と期待に胸を膨らませていた生徒たちの、一生で一度の素晴らしい思い出となった修学旅行の様子を、これからご紹介します!

1日目【平和学習】

いよいよ出発の日です。朝の集合はなんと
6:45!
無事に全員飛行機に乗り込み出発しました。
さて、那覇空港に到着後のこの日のテーマは
「平和学習」です。

沖縄戦で利用されたガマで暗闘体験をしたり、
ひめゆり平和記念資料館で戦争を体験された方
のお話を聞いたりする中で、決して忘れ去られては
ならない戦争の悲惨さをあらためて感じました。
この日の宿泊先は、ホテルムーンビーチ・・・!
仲間とともに、思い出に残る一夜を過ごせたことでしょう!



平和学習の様子



ホテルでの
バイキング!

2日目【クラス別観光】

この日はクラスごとに希望したコースをまわります。

とても暑かったので半袖でも過ごせそうでしたよ!

★A～E組のコース

★F、G組のコース



クラスボート → 古宇利島 → フルーツランド



美ら海水族館 → 本部元気村

3日目【伊江島民泊】

2泊3日の民泊では、約4～5名で1つの民家にお世話になります。農業体験、お菓子づくり、島内めぐりなど、東京ではできない体験をすることができました。大崎に帰って何人かに聞きました。

「修学旅行で何か一番思い出に残ってる？」

みんな口をそろえて、「みんぼく!!!!」



白砂の伊江ビーチ



4日目【首里城・国際通り】

いよいよ最終日。
民家の方々に別れを告げて本島へ戻ります。

最終日は、首里城と国際通り観光です。

お土産を見たり、アイスを食べたり、琉球の歴史を学んだり、沖縄への別れを惜しむように最後の最後まで堪能していました。



今回の修学旅行を通してわたしの印象に残っていることは、「今までに見たことのなかった生徒の表情」です。民家の方々と交流しているときの笑顔、お世話になった民家の方々との別れ際の泣き顔、戦争体験を聞く真剣な顔。生徒の様々な表情を見ることで、生徒が本気で楽しみ、学び、感謝し、人生でかけがえのない4日間を過ごしているのだと、私は大変嬉しく思いました。また、修学旅行の全行程を予定通りスムーズに終わらせることができたのは、班長だけでなく一人ひとりが自覚を持って決められた時間で行動し、「修学旅行を最後まで楽しもう!」という姿勢を失わなかったからです。

さて、2学年のみなさん! 楽しかった修学旅行の思い出を胸に、気持ちを切り替え、現3年生の背中を追って「受験」という壁にぶつかっていきましょう!

私たち2学年の担任団は、生徒たちの進路実現に向けて全力でサポートしていきます。

「卒業までに」



●3-A担任 原澤 直貴「言葉」

言葉はとても大切です。言葉を発した時点でその言葉には「力」が宿ります。いわゆる「言霊」というものです。3年間、様々な国の様々な時代の人たちの言葉をみんなに紹介してきました。ムーミンの絵本の中に「嫌いな人の悪口を言う暇があったら好きな人に好きって言ったほうが何倍も良いんじゃない？」という言葉があります。ルミネには「私には私を素敵にする責任がある」という広告があります。どちらも私が大好きな言葉です。みんなも卒業までに自分の心を揺さぶるような名言を見つけたり、創り出したりしてくださいね。それらはいつかみんなを助けてくれますよ。

●3-B担任 大嶽 敦「これからの取り組み」

みなさんがこれから歩む社会は、差のつく社会です。夢や目標に向かって、「頑張ること」「努力すること」が絶対必要になります。進学についても〇〇になりたいから〇〇大学〇〇学部に入學する。〇〇専門学校に入學する。そこで勉強すれば大丈夫ということではなく、実際にはマニュアルがなく、自分で考え判断し行動することが求められ、自分で努力することが必要です。常に前向きに努力すること。努力は裏切らないので。

●3-C担任 吉岡 香子「精一杯」

卒業間近です。晴れやかに卒業したい、してほしいとみんなが願っています。晴れやかに卒業した後きつと、この3年間はみなさんの人生をいつも支えてくれるはずですよ。だから、今まさに受験の真っ只中にいる人は決してあきらめないで、弱気にならないで、全部やり切ってください。結果を考えないで、目の前の1つ1つを今やり切ることです。

まだ、パソコンやスマートフォンが普及していなかった時代、TVで「世界一の」と何かを紹介するために何日もかけて調べて調べていたそうです。たった2秒の言葉のために。時間をかけた分だけきつと言葉の重みがあったはずですよ。かけた時間は裏切らない。「卒業おめでとう」の言葉までまだまだもっと頑張ろう！

●3-D担任 高橋 薫「人にやさしく」

“I object to violence because when it appears to do good, the good is only temporary; the evil it does is permanent”

—Mahatma Gandhi—

「私は暴力に反対する。暴力が善に見えたとしても、それは一時的なものであり、暴力のもたらす悪は永遠である。」

—マハトマ・ガンディー

暴力は人を傷つけます。肉体的な暴力だけを指しているのではありません。たとえ些細なものであっても、嫌な思いはこの先ずっと残ります。そして、いつか自分も後悔することになるでしょう。軽い気持ちや、その場の勢い、恥ずかしい思いを隠すためにも、人を傷つけることはしないでください。いつでも相手を尊重できる大きな人間になってください。

●3-E担任 米倉 佑紀「過去と未来」

「過去と未来どっちが大切？」と聞かれたら、私はきつと「過去」と答えます。過去には楽しかった思い出はもちろん、成功や失敗の経験が詰まっています。人はその時に持っている知識と過去の経験から次の行動を決めます。そのため、未来を生きるために考えた選択肢はその人だけのものなのです。過去が大切というのは未来を見ないということではなく、「過去」は悔いを残さないための未来を“生きる力”になると私は思います。過去があるから、未来を頑張れるのです。だからこそ、皆さんはこの先の人生において、高校生活で努力した「過去」を認め、この先の人生を“生きる力”にしてください。

●3-F担任 寺田 典幸「愛と光と忍耐」

3年間担任をしてきて心がけていたことが3つあります。それは教室を快適(ゴミや埃のない)空間にしておくこと、それから自分だけでなく周りの人が聞いても嬉しくなるような言葉をなるべく使うようにすることです。1つ目は光のように輝く清潔な場所にすることですが、2つ目は例えば誰かに何かをしてもらったときに「すみません」ではなく「ありがとう」と言うようにすることなどです。ではタイトルの3つ目は何かというと、辛いことがあっても自分は愛(愚痴泣き言悪口文句不平不満などを言わないようにする)と光(例えば常に教室を清潔にすること)でいるぞという忍耐です。完璧に自分が実践できているかは微妙ですが(笑)、生徒のみんなには愛と光と忍耐という考え方を覚えていてくれたら嬉しいですよ。

●3-G担任 庭野 裕「やり抜く」ということ

皆さんの人生にこれから「普通科」はありません。普通に・人並みにという尺度ほど曖昧なものはありません。私は「一般的」ではない社会人大学院生や激貧NPO職員も経験してきましたが、どれも今の自分を支える糧となっています。人生において、その瞬間瞬間に「やり抜く」ことが、皆さんにとっての成長のカギとなります。さあ、次なる第一歩の前に『高校生活』をやり抜こう！

もうすぐ卒業式

